

カムログインプラントシステム ポジションプランニング

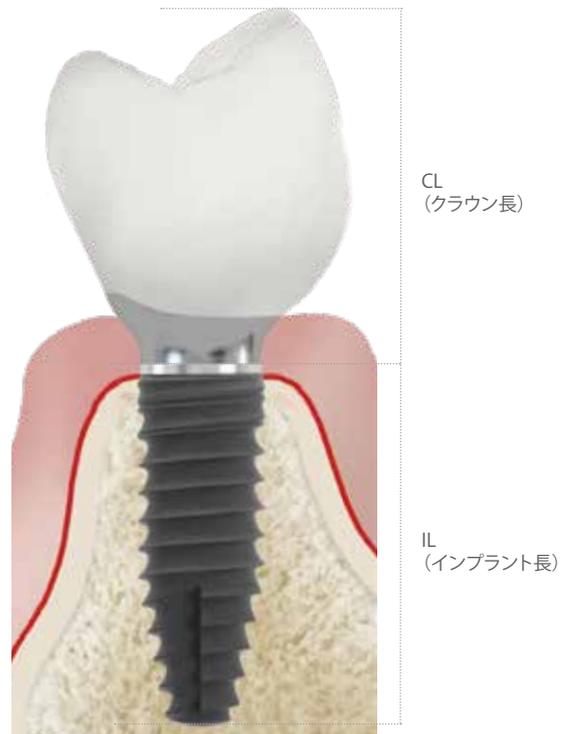
インプラント修復は、原則として補綴主導(《Backward Planning》)で行われます。以下に、計画時に考慮すべき事項を記載します。

インプラントの歯冠-歯根比

フィクスチャと骨の界面にかかる負荷は補綴クラウン長(CL)とインプラント長(IL)の比率によって定まります。インプラント長(IL)がクラウン長(CL)よりも短い場合は、負荷を軽減するための対策を講じる必要があります(補綴スプリントの使用など)。フィクスチャ上の歯冠-歯根比が好ましくない場合は、長いフィクスチャを選択する必要があります。

クラウン長(CL)とインプラント長(IL)の比は、最大0.8:1でなければなりません。

フィクスチャの配置は、スパンセグメントが小さく保たれるように構成する必要があります。アバットメントの形成においては補綴物の挿入方向を確保する必要があります。フィクスチャとアバットメントの連結部分はいかなる場合も加工することはできません。



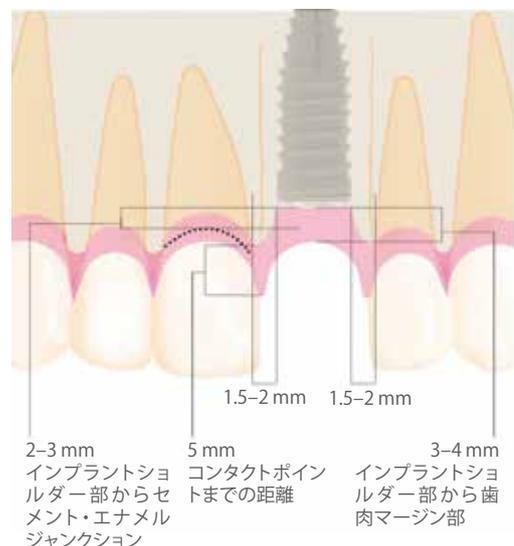
隣接する天然歯および構造物までの距離

垂直的インプラントのポジションニング

治療段階で硬組織と軟組織を最適にし、創傷を適切に治癒させるために隣接する構造からの距離に関する推奨事項を順守する必要があります。

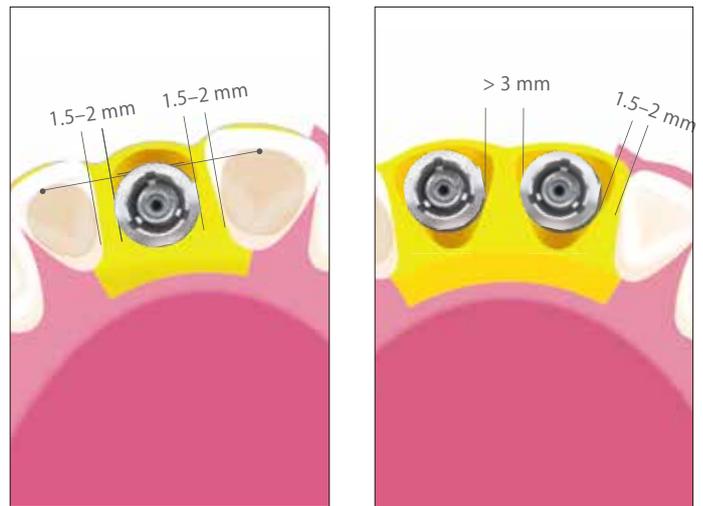
フィクスチャの垂直方向のポジションニングを決定するための推奨距離は、図に示されています。臨床においては、この基準を順守する必要があります。

フィクスチャの直径は、フィクスチャの周囲に適切な骨幅(少なくとも1mm)を残すサイズにする必要があります。



水平方向のインプラントのポジショニング

最低でも隣接する天然歯まで1.5mm、隣接するフィクスチャまで3mmの最小距離を維持してください。
 フィクスチャの直径は、フィクスチャの周囲に適切な骨(少なくとも1mm)を残すサイズを選択する必要があります。



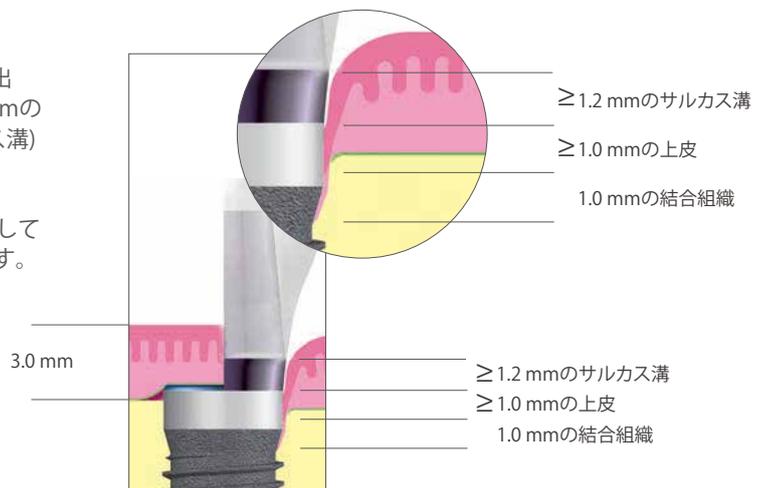
骨レベルでの近遠心的インプラント
 ポジション

骨レベルでの距離

生物学的幅径

プロトコルに従ってインプラントを埋入し、粗造面が露出した箇所には1mm程度の増骨を行った場合、約3mm(1mmの結合組織、約1mmの接合部上皮付着、約1mmのサルカス溝)の生物学的幅径が確立されます。

カムログスクリューインプラント プロモートは、基準としてプラットフォームを骨縁上0.4mmに位置するようにします。



カムログスクリューインプラント プロモートプラスも同様に、プラットフォームを骨縁上0.4mmに位置するようにします。

